



農業系高校後継者特別推薦入学試験 が行われました

9月30日（水）、令和3年度入学農業系高校後継者特別推薦入学試験が行われ、10月8日（木）の合格発表で11名が合格をしました。合格者の内訳は切花専攻1名、作物専攻2名、露地野菜専攻2名、施設野菜専攻5名、養豚・養鶏専攻が1名でした。

この入学試験は、愛知県内の農業関係高校に在籍・居住し、自立経営可能な条件を備えた農業経営体の後継者であること、農大卒業後は農業に従事し、地域の基幹的な農業者として活躍しようとする意欲の強い人を対象にした推薦入学試験です。この特別推薦入試は、本年度で4年目を迎えますが、10名を超える応募があったのは、初めてのことです。

試験当日の面接では、受験生は緊張しながらも、農業経営の規模や地域の課題、高校生活で打ち込んできたこと、将来の夢について述べ、真剣かつ一生懸命に準備してきた様子がうかがえました。合格した11名は、やがては地域や産地でリーダーシップを発揮しながら活躍する農業者に育つことが期待されます。本校の教育活動に大きな期待と夢を持って志望してくれたことに応えられるように、本校職員も学習環境を整備していきたいと思えます。

農業大学校の入学試験は、10月30日（金）に一般推薦入試が行われ、12月8日（火）に一般入学試験が行われる予定です。本校が開催したオープンキャンパスや緑の学園研修には多くの方に参加いただきました。農大では本校の教育活動を理解し、農業の担い手を目指す意欲ある受験生の応募を待っています。

（学務科 近藤 靖之）

農業高校農場長との意見交換会で 連携を深める

10月2日（金）、県内10校の農業関係高等学校の農場長及び農業教育共同実習所の主査との意見交換会が農業大学校で行われました。

はじめに農業教育研究会長である安城農林高等学校、鶴飼愛一郎校長先生から、農業の担い手を育成する共通の目標を持つ農業大学校との連携が期待されていること、堤農業大学校長から、農業高校と農大の長所をお互いに還元できる連携の重要性について、あいさつがありました。

情報交換では、農大から、農大の概要・専攻の紹介、夏休みに行われた緑の学園研修やオープンキャンパスの結果と状況報告について、農業高校から、農業科の進学状況や就職状況、時代の進展に応じた農業教育の取組、地域社会との連携など愛知県の農業教育の現状について説明を行いました。

意見交換では、今回の議題である「農業高校と農業大学校の連携について」協議を行い、各校、農大から、今後の連携で必要なことや農大から農業高校への情報発信について意見が述べられました。連携では、農業高校と農大との教職員間や学生間との交流を積極的に進め交流を通じて互いの専門性を高めるこ



〔開会の挨拶をされる鶴飼校長〕

と、情報発信については卒業生の母校訪問や学生からの農大紹介など、より農大が身近に感じられる機会をつくるなどの意見があり、今後、具体的に進めていくこととなりました。

会終了後、和耕寮の食堂で昼食をとっていただき、普段学生が利用している食堂の味や学生生活の様子を理解してもらうことができました。

(学務科 近藤 靖之)

校外学習

コロナ禍が花き鉢物市場に及ぼした影響と顧客から選ばれる生産者像について学ぶ(切花専攻)

9月28日(月)に鉢物・緑花木専攻の2年生(8名)が、校外学習で豊明市の「愛知豊明花き地方卸売市場」を視察しました。例年は6月の実施ですが、今年は新型コロナウイルスの影響で実施が遅れた分、コロナ禍が市場動向に及ぼした影響について話を聞くことができました。



[場内視察の様子]

はじめに、総務部の深見英治氏から、市場概要説明と場内の案内をしていただきました。豊明花きの年間取扱額は約100億円で、全国の花き市場の12%を占めます。集荷は45%が愛知県内の生産者からで、出荷先は半分が東海3県、それ以外は西日本が多いとのことでした。場内見学では、6か所のセリ台で威勢良くセリ取引が行われて

おり、学生はセリのスピードに圧倒されながら、大型モニターを一生懸命目で追っていました。また、本年度豊明花きに就職した卒業生を場内で見つけ、元気な姿に安心しました。



[セリ会場を見学]

続いて営業本部商品部長の井上博史氏から、コロナ禍が鉢物市場に及ぼした影響について、説明していただきました。消費減退により4月まで苦しい状況でしたが、巣籠もり需要により観葉、多肉、花苗・野菜苗等の売上が回復し、6月以降の取扱額は前年同月比プラスが続いているとのことでした。次に顧客から評価される生産者について質問したところ、1年を通して出荷があり、品質が安定している人が評価されるとのことでした。最後に鉢物業界の今後については、やり方次第でまだまだ伸びる余地がある、ただし毎年同じではダメ、消費者の生活の変化から生まれるニーズを的確に把握して、小売り等とコラボして新たな商品開発をしていく必要があるとの言葉をいただきました。

市場やセリを見るのは初めてという学生がほとんどで、話の内容が専門的ですがすぐに理解できない部分もありましたが、全員が真剣に研修に取り組んでいました。提出されたレポートでは、市場の重要性を知ることができたとの記述が多く見られ、また自分たちをもっと購入してくれるお客のことを考えて、商品作りをするべきとの意見も聞かれました。

(農学科 坂場 功)

東谷山フルーツパークで 熱帯果樹を学ぶ（果樹専攻）

10月8日（木）、名古屋市守山区にある東谷山フルーツパークへ視察に行きました。フルーツパーク職員さんから園内を案内していただきました。まず、アボカドやドラゴンフルーツ、パッションフルーツなどを栽培している熱帯果樹温室にて、普段見ることのない珍しい品目について丁寧に説明していただきました。学生も興味津々で見学していました。

その後、外に移り、ナシ、イチジク、ブルーベリー、カキ園などを見学しました。



[視察の様子]

農大とは異なる栽培方法を学んだ学生からは多くの質問がなされ、その都度、丁寧に回答していただきました。学生にとって、大変有意義な視察となりました。

（農学科 佐野 達也）

田原市でセルリ及びブロッコリーの 栽培技術と経営を学ぶ（露地野菜専攻）

10月8日（木）に露地野菜専攻の2年生15名が、校外学習で田原市のセルリ生産者とブロッコリー生産者を視察しました。当日は、台風が接近する悪天候の中、両生産者からは、台風対策や過去の台風被害の経験も含めてお話をしていただきました。

セルリ生産者からは、育苗期間が長く良苗生産は簡単ではないこと、かん水管理が重要なことなど栽培管理に加えて、施設栽培と露地栽培の特徴や、施設の被覆資材の

張替え方法について教えてもらいました。また、後継者の確保やセルリの消費拡大など産地の課題についてもお話を聞かせていただきました。農大ではセルリを栽培していないため、ほとんどの学生はセルリの栽培状況を見るのは初めてで、高い関心を持って生産者の説明に耳を傾けていました。



[農業機械を見ながら説明を受ける学生]

大規模経営のブロッコリー生産者からは、栽培ほ場と各種機械を見学しながら、畝立てから追肥・中耕までの作業の流れ、緩効性肥料と乗用型定植機の活用による省力化の取組等を説明していただきました。また、収穫時の包丁の使い方や同一ほ場で多数回収穫を行うなど、ブロッコリー栽培ならではの特徴も勉強できました。学生にとって、意欲的な経営を進める生産者のお話と、整然と管理されている栽培ほ場は大変刺激になり、今後の農大での実習に活かすことが期待される校外学習になりました。

（農学科 長屋 浩治）

加工演習 今年もおいしいフルーツジャムが できました!!（果樹専攻）

10月9日（金）、果樹専攻2年生14人が農産加工実習で、農大で収穫した果実を使用し、イチジクとミカンのジャム作りを体験しました。果肉に砂糖を混ぜながら糖度

40度以上になるように煮詰めて仕上げますが、ジャムが焦げ付かないように絶えずかき回すのはかなり大変な作業でした。



[加工実習の様子]

今回は作ったジャムは12月5日(土)に行われる農大祭で販売します。農大ジャムは人気があり、去年はすぐに完売してしまいました。たくさんのお客様に喜んでいただくために、今年

はミカンジャムをたくさんご用意しております(ミカンジャム100ビン、イチジクジャム70ビン)。学生が丹精こめて造ったジャムを是非、御賞味ください。

(農学科 佐野 達也)

専攻紹介 【露地野菜専攻】

露地野菜専攻には、1年生14名、2年生16名の計30名が在籍し、露地野菜と促成イチゴの技能習得に取り組んでいます。1.5haのほ場で、冬はキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、夏はスイートコーン、夏秋ナス、スイカを主体に県内の主要40品目を学習しています。イチゴは県内で栽培されている4品種について勉強しています。昨年、環境測定装置の「アグリログ」を設置し、ハウス内の温湿度と炭酸ガス濃度のモニタリングを開始しました。今年は暖房機の更新に合わせて新たに炭酸ガス発生機を導入し、本格的な環境制御技術に取り組んでいます。

近年の異常降雨対策のため、バックホーによる地表排水路の整備と、プラソイラー

による深耕を行っています。また、低コスト生産と生産性向上のため、土壌診断に基づく施肥量の適正化と、夏期の遊休期間を利用した緑肥栽培を継続しています。さらに、直売所の野菜品目拡大に向けて、自動カーテン、自動給液装置を備えた鉄骨ハウスを建設しました。学生は、ハウスで、アスパラガス、葉ネギ、ホウレンソウなど軽量野菜の周年栽培を勉強しています。



[イチゴの環境測定]

本年度、スマート農業への取組として、施肥・施薬付き畝立て機を導入しました。露地野菜専攻では最新機械装備を積極的に取り入れ、将来の農業経営者を育成していきます。

(農学科 長屋 浩治)

【養豚・養鶏専攻】

畜産課程養豚・養鶏専攻には1年生8名、2年生11名の合計19名が在籍しています。皆動物が大好きで、家畜との触れ合いを楽しみながら将来必要となる飼養管理技術を身につけるべく、一所懸命専攻実習に取り組んでいます。

本年度は新型コロナウイルスの影響で、1年生の実習は6月1日からの開始となり、例年よりも短い期間で多くの技術を学ばなければなりません。9月15日から始まる農家派遣実習を有意義なものにす

るために、少しでも多くを学ぼうと真剣に専攻実習に取り組んでいました。2年生はプロジェクト研究をまとめて卒業論文を作成しています。

○養豚コース

愛知県は豚肉の大消費地であるとともに、その産出額が全国第9位（平成30年）と、養豚が盛んな地域でもあります。そのため、養豚コースに対する生産現場からの期待は大きく、昨年度の卒業生は1名が養豚業を継ぎ、他の全員が養豚場に就職しています。また、現在は3名の養豚後継者を含む9名が学んでいます。

養豚コースでは、豚の交配から肉豚出荷に至るまでに必要な技術と知識を学んでいます。少ない飼養頭数ながら、繁殖母豚として使用するランドレース種と大ヨークシャー種の交雑種、及びこれらと交配して三元肉豚を生産するためのデュロック種の自家育成にも取り組んでいます。また、プロジェクト活動では、群管理における母豚の発情同期化法や、精液希釈液の種類や希釈倍率の違いによる液状精液の保存性についてなど、学生の興味だけではなく、将来役に立つ試験を行っています。

臭い・汚い・きつい3K作業と敬遠されがちな養豚ですが、学生たちにとって、かわいい子豚たちの世話をすることは、心癒される時間ともなっています。



[日々豚の管理に取り組む学生たち]

○養鶏コース

愛知県は鶏卵の産出額が全国第6位（平成30年）であり、養鶏が盛んです。

養鶏コースには、開放鶏舎とウインドウレス鶏舎のタイプの違う2鶏舎があり、鶏種や飼養形態による飼養管理方法の違いを学習できます。また、愛知県の特産である卵用名古屋コーチンを主体に、白色レグホーン、ロードアイランドレッド、アローカナ、烏骨鶏、岡崎おうはんといった多様な品種を合わせて約2,500羽飼養しています。

このような実習環境は他県の農大に比べると充実しており、ここ数年毎年のように県外出身の学生が養鶏コースを目指して入学してきます。今年は10名中6名が他県出身です。わざわざ県外から入学するだけに学習意欲が高く、お互いに刺激しあいながら活気ある専攻実習を行っています。



[農大ではいろいろな種類の卵を生産しています]

日頃から養鶏コースでは、経営者や農場長になれるよう、自ら考え、計画し、責任を持って行動できる人材の育成を目指していますが、今の学生はこれに十分応えられると期待しています。

派遣実習を終え、プロジェクト学習のテーマを考える時期である今、学生の学習意欲に柔軟に対応し、学生の主体性を伸ばしていきたいと考えています。

（農学科 永田 完、山本るみ子）

農業者生涯教育研修 鉢物農家を対象に生産高度化研修を実施

10月15日（木）に愛知県花き温室園芸組合連合会と共催で「鉢物の商品性向上による経営改善」をテーマにした研修会を豊明花き株式会社で開催しました。この研修会は豊明花き株式会社のシステム提供と運営協力によりオンラインで実施し、県内各地から26名の生産者等の参加がありました。内オンライン参加は13名でした。



〔講演の様子〕

研修会では、愛知県西三河農林水産事務所農業改良普及課西尾駐在室の牧田尚之専門員から「西尾市の鉢物生産状況」についての発表がありました。西尾市は和物、観葉、洋らん、鉢花の鉢物なら何でも揃う総合産地であることが説明されました。

続いて、豊明花き株式会社企画本部/経営企画担当取締役の重村修一郎氏から、「コロナ禍における社会変化に花き業界はどうか対応するのか」の演題により講演がなされました。新型コロナウイルスにより従来どおりの商談会、商品説明会、展示説明会等の開催が制約を受ける中、インターネット取引が増大しており、今後も、商品提案、受注確認など幅広く取引機能のデジタル化を進めるとともに、市場連携においてもインターネット取引を導入し、効率的なシステムの構築を目指す方向性が示されました。

最後に、愛知県農業総合試験場の長嶋圭主任専門員を座長に、総合質疑が行われま

した。生産者にとって重要な販路拡大のための市場間の連携拡大、買受人からの要望意見が伝わる仕組み、また商談会の今後のあり方が議論され、有意義な研修会となりました。

（就農支援科 柴田 健）

GAP研修を実施

令和2年10月5日（金）農業大学校で、農業者生涯教育研修GAP研修を愛知県農業水産局農業経営課との共催により開催し、愛知農業次世代リーダー塾の受講生等39名が参加しました。

この研修では、経営コンサルタント・オフィスb-MAPの久田博司代表に、食品安全を取り巻く環境、PDCAサイクルの活用、GAPの実践ポイント、具体的なGAPへの取組について、分かりやすく解説していただきました。

講演後の質疑応答では、HACCPがどの程度求められているか、自然環境をコントロールできない農業生産において、どう対応したらよいか等の質問が出され、関心の高さがうかがえました。



〔久田博司氏による講演〕

終了後の受講者アンケートでは、GAPについて理解が深まった、GAPに取り組む重要性が認識できた、との感想が多く寄せられました。

（担い手支援科 杉浦 直樹）

農大からのお知らせ

◇新型コロナウイルス感染防止の ためのお願い◇

校内における新型コロナウイルス感染防止の徹底を図るため、3つの密を避け、マスクの着用、手洗い・手指消毒を励行するなど、学生や研修生、職員への感染防止対策に取り組んでいます。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

なお、行事等については、新型コロナウイルス感染症の状況により、延期もしくは中止となる場合があります。その際は、農業大学校ホームページ等でお知らせします。

◇農大祭の御案内◇

「未来へ継げよう農業への道 ～雨ニモ負ケズ風ニモ負ケズ～」をテーマに農大祭2020を開催します。

今年も、農大生が育てた自慢の農産物の直売、農大キャンパスツアー、協賛団体・企業出展など、農業大学校を身近に感じていただける催しを計画しております。

学生・職員一同心を込めて準備に取り組んでいますので、ぜひお越しくください。

- ・期日 12月5日(土)
 - ・時間 午前9時から正午まで
 - ・場所 農業大学校
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、例年と異なる内容となります。詳細は決まり次第、農大だよりや本校ホームページでお知らせします。
- ・問合せ先：学務科(伊藤) 0564-51-1602

◇緑の学園(1日農業体験学習)◇

- ・開催日時
12月24日(木)

午前10時から午後4時30分まで
(雨天実施)

- ・対象：主に高校生(農業を学びたい高校卒業生を含む)
- ・定員：30名
- ・場所：農業大学校
- ・受講申込書を郵送又はファクシミリで研修部まで送付してください。
(締切日：12月1日(火))
- ・詳細は本校ホームページを御覧ください。
- ・問合せ先：就農支援科(柴田)
0564-51-1034

◇令和3年度入学者選抜試験◇

一般推薦入学試験

- ・出願期間：令和2年9月29日(火)から
令和2年10月15日(木)まで
- ・試験日：令和2年10月30日(金)
- ・合格発表：令和2年11月12日(木)
- ・試験科目：小論文(800字以内)
面接試験
- ・募集人員：定員100名のうち2/3以内
(特別推薦入学者を含む)
- ・受験会場：農業大学校

一般入学一次試験

- ・出願期間：令和2年11月12日(木)から
令和2年11月26日(木)まで
- ・試験日：令和2年12月8日(火)
- ・合格発表：令和2年12月18日(金)
- ・試験科目：数学I、小論文(800字以内)
面接試験
- ・募集人員：定員100名のうち推薦入学合格者を除く人数
- ・受験会場：農業大学校

一般入学二次試験

- ・一般入学一次試験で合格者が定員に満たなかった場合に実施します。

その他

- ・特別推薦入学試験、その他入学試験についての詳しい情報は、本校ホームページを御覧ください。
- ・問合せ先：学務科（近藤）0564-51-1602

◇生産物実習販売ごよみ◇

令和2年11月の生産物実習販売についてお知らせします。

- ・販売日：11月4日、11日、18日、25日
（祝日を除く毎週水曜日です。）
- ・時 間：午後3時から
- ・場 所：農業大学校体育館他
※なお、袋入り堆肥は、第2機械庫前で販売します。（毎月第2水曜日）
- ・問合せ先：農学科（山本）0564-51-1673

校内で豚熱(CSF)防疫対策実施中

農大では、豚熱防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

- 畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
- 農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
- 関係車両等の消毒の徹底
（車両消毒槽、動力噴霧器）
- その他、諸防疫対策を実施

◇農業大学校の公式 SNS の アカウントを開設 !! ◇

農業大学校の公式 SNS として Twitter、Instagram のアカウントを開設しました。ユーザーネームは「aichinoudai」です。学校行事や専攻学習・実習販売の情報等、日々の活動を投稿していきますので、是非御覧ください。

- ・問合せ先：農学科（古川）0564-51-1673